



「第13回公開授業・公開研究会」から

本校では、センター的機能発揮の機会として、毎年「公開授業・公開研究会」を開催しています。今年度は11月29日に開催し、たくさんの方に参加していただきました。皆様からのご意見を真摯に受け止め、今後のよりよい実践につなげていきたいと思っております。

公開授業

★研究プロジェクトからの研究報告

授業実践力の向上に向けた研究活動の中心を担っています。

- ① 本校の今年度の学校重点課題
- ② 授業改善を支えるもの

研究概要



★キャリア部からの研究報告

キャリア発達の視点を取り入れた教育実践研究の中心を担っています。
キャリア発達を支援する取組の基本

ポスター発表



二次障害を呈する生徒への実践



「頻りにパニックを起こしてしまうA君への環境設定とコミュニケーションの指導 ～情緒の安定を目指して～」



「安全にいきいきと過ごせる学校風土をつくるために～肢体不自由教育対応マニュアルの活用と課題～」

パネルディスカッション



本校卒業生保護者から話題提供をいただき、和歌山大学江田教授にコーディネーターをお願いし、パネルディスカッションを進めました。パネリストは、ポラリス社センター長、本校中学部白井主事でした。パネルディスカッションについては本校HPに内容をまとめてありますので、ご覧下さい。

交流・連携の場



今回は、つくし医療福祉センター臨床心理士の阪上陽一氏に記事をお願いしました。3年前から本校のアセスメントに関する校内職員研修の講師として、的確でわかりやすいご指導で本校のアドバイザー的な存在になっていただいています。今回は地域の子どもたちと深くかかわっておられる先生に「地域の先生方に発信したいこと」として記事をいただきました。

皆様、初めまして。私は、和歌山つくし医療・福祉センターで臨床心理士として働いております。業務内容といたしましては、主に、発達上の問題を抱えておられるお子さんに対して、心理的なケアや能力の把握のための検査を行っております。それと同時に親御様からの発達相談も積極的にお受けいたしております。

また、ここ最近では、親御様を対象に、子育て支援の一環といたしまして、「お子様のほめ方講座」というような学習会も開催させていただくようになりました。

皆様は「お子様をほめる」ということに関してどのような思いをお持ちでしょうか。「ほめ方講座」の冒頭でもこの質問は毎回行なっておりますが、大多数の親御様が「ほめることは結構難しい」と答えておられます。また、発達相談で親御様からのお話をお聞きしておりますと、「いろいろな場面で『子供を褒めてください』と言われるが、実際どう褒めていいかわからない。」という訴えもよく耳にいたします。「褒めることは大事」「褒めることは重要だ」とわかってはいても、いざ褒めるとなると、意外に難しいと感じる方は多いのではないのでしょうか。

では、何故、褒めることは難しいと感じてしまうのでしょうか。今回は、その点をお話したいと思います。突然ですが、ここで皆様に質問です。「あなたは、ここ一週間で、家族から何回褒められましたか？」もしくは「そもそも、ここ一週間、家族から褒められましたか？」

「褒め方講座」でも、親御様に、毎回この質問をさせていただくのですが、手の上がる数は結構少ないんです。逆に、注意を受けたり、至らないところを指摘されたり、もしくは怒られたり叱られたり…となると、こちらは結構多くの方、場合によっては講座に参加されている方全員が手をあげられることも珍しくありません。

どちらかというと、日本では、悪いことや人と違うこと、「ズれる」「外れる」ことをしたら、即座に指摘を受けて、注意やお叱りを受けず、さらに注意やお叱りを受ける時は決まって「なんでそんなことするの!？」と言われてしまい、どうすれば叱られないかを、自分で考えるように促されることが多いのではないのでしょうか。それでも、勤のいい人はさっと気づいて自分の行動を修正し、そうでない人も、周囲を見渡したり、その場の空気を読んだりして、なんとか叱られないようにします。

つまり、大多数の日本人は、「叱られること、注意されること」が多いため、叱り方や注意の仕方はしっかりと学習できています。一方で、「褒められること」は結構少ないので、褒め方を学習する機会は圧倒的に少なくなりがちです。

ちなみに、「褒めること」はスキルですので、教えてもらったり経験したり、見たり聞いたりして、身につけていかなければなりません。学習する機会が少ないとなると、褒め方が身につけません。身につけていないのですから、当然ですが褒めることはできませんし、その結果「難しい」と感じてしまう。

如何でしょうか。褒めることが「難しい」と感じてしまうのは、このような理由があるのではないかと私は考えております。もし皆様が、親御様と、お子様の発達面や社会生活面、勉強面などを巡ってお話をされる際、「お子様を褒めること」についての話題が持ち上がるかもしれません。もちろん「褒めること」は非常に重要ですから、親御様にはお勧めしていただきたいのですが、そのあと、できれば、続けて以下のようにもお伝えいただければと思います。

「でも、いざ褒めるとなると、結構難しいですね。」
皆様が、まずは「お子様を褒めること」の難しさを認識していただき、その思いを持って親御様のお気持ちに寄り添っていただくことで、お心が救われる親御様は多いのではないかと思います。そして、それこそが子育て支援の第一歩になるのではないかと思います。

各市教育委員会を通じて、本校教育相談事後アンケートを送付させていただきました。お手数ですが、今後の相談活動に生かしていきますので、ご協力よろしくお願致します。